

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○本家寿洋 岩瀬義昭

【概 要】

作業療法は、身体機能障害に特有な疾患が生じて心身両面を包括的に関与することが重要である。本講義では、脳血管疾患、脊髄損傷、骨折・切断、心疾患、悪性新生物、関節リウマチ、神経変性疾患、神経・筋疾患の各疾患に特有の検査・評価を学習することと、全ての疾患に使用できる面接評価を学ぶ。

【学習目標】

【一般目標】

1. 身体機能作業療法の脳血管疾患、脊髄損傷、骨折・切断、心疾患、悪性新生物、関節リウマチ、神経変性疾患、神経・筋疾患に対する評価法を理解する。
2. 面接や観察による評価を理解する。

【行動目標】

1. 各疾患の作業療法評価を説明できる。
2. 面接や観察の評価を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	脳血管障害の評価 (1)	脳血管障害の評価に最低限必要な関連知識や機器・ラインを学ぶ。	本家寿洋
2	脳血管障害の評価 (2)	Brunnstrom recovery Stage と上田式片麻痺機能テストを学ぶ。	本家寿洋
3	脳血管障害の評価 (3)	片麻痺患者における戦略的な行動システムを学ぶ。	本家寿洋
4	脳血管障害の評価 (4)	脳血管障害の急性期の評価を学ぶ。	本家寿洋
5	脳血管障害の評価 (5)	脳血管障害の回復期・維持期の評価を学ぶ。	本家寿洋
6	関節リウマチの評価	関節リウマチの作業療法評価を学ぶ。	岩瀬義昭
7	神経変性疾患の評価 (1)	パーキンソン病の作業療法評価を学ぶ。	岩瀬義昭
8	神経変性疾患の評価 (2)	SCDとALSの作業療法評価を学ぶ。	岩瀬義昭
9	神経・筋疾患の評価	ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症の作業療法評価を学ぶ。	岩瀬義昭
10	心疾患・呼吸器疾患の作業療法	心疾患および呼吸器疾患の作業療法の評価を学ぶ。	本家寿洋
11	カナダ作業遂行モデル	カナダ作業遂行モデルとCOPMの評価法を学ぶ。	本家寿洋
12	面接による評価 (1)	OPHI-Ⅱの評価法を学ぶ。	本家寿洋
13	面接による評価 (2)	絵カード評価法、包括的環境要因評価法を学ぶ。	本家寿洋
14	面接による評価 (3)	高齢者版・余暇活動の楽しさ評価法を学ぶ。	本家寿洋
15	面接による評価 (4)	QOL-26とSF-36の評価法を学ぶ。	本家寿洋

【評価方法】

定期試験 (75%) とレポート課題 (25%) で評価する。追・再試験においてもレポート課題 (25%) の点数は加味される。解答用紙は、希望者に返却するので、講義した内容と関連させて復習すること。

【備 考】

教科書 : 岩崎テル子 他 編 「作業療法評価学 第3版」 医学書院 2017年

参考書 : 日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学」 協同医書出版 2010年
 小林隆司 編 「身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編」 羊土社 2019年
 小林隆司 編 「身体障害作業療法学2 内部疾患編」 羊土社 2019年
 澤俊二 他 編 「作業療法評価のエッセンス」 医歯薬出版 2013年
 長崎重信 監修 「作業療法ゴールドマスターテキスト3 作業療法評価学」 メジカルビュー社 2012年
 Karen Schultz 著 「シュルツ・上肢の痛みの評価法」 協同医書出版 2003年

坪田貞子 編 「身体作業療法クイックリファレンス」 文光堂 2010年
吉川ひろみ 他 編 「作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド」 医学書院 2014年

【学習の準備】

1. 教科書を事前に読んだうえで講義に臨む(80分)
2. その日に講義した内容は説明できるようにする(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

岩瀬義昭（作業療法士）

本家寿洋（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かして講義を行う。